

## 事例1

### 事業名 大阪での大災害発生時における障がい者支援モデルケース事業 (ミンナDEカオウヤ)

#### 課題

大阪市として東日本大震災の被災者に対して積極的な支援を行っていく必要があり、その一つとして、障がい者を中心とした被災者のニーズと大阪市民ボランティアによる支援をつないでいく。

#### 効果

- ①現地のニーズと大阪の人たちの何かしたいという気持ちをつなぐことで、具体的な支援につながります。
- ②被災者支援の市民巻き込み型のモデルケースとして大阪にノウハウが蓄積されます。
- ③障がい者福祉施設に経済的な支援が行われ、自立を促進することができます。
- ④継続的な情報提供により、被災地に対する関心を喚起することができます。
- ⑤大阪からの応援の声を被災地に届けることで、被災地の方々に対する精神的な勇気づけが行えます。

## 協働のパートナー

☆経費の形態☆ 共催

### 特定非営利活動法人み・らいず

大阪市住之江区・堺市を中心に障がい児・障がい者、発達障がい・不登校の子どもたちの支援を展開するNPO法人です。震災後は、石巻市でも不登校児童の支援を実施中。

### 市民局市民部地域活動課（市民活動）

NPO 等が、市と共に地域の課題に取り組む事業や、これらのNPO等の活動を促進する基盤の整備を支援することにより、NPO等が行う自立的活動を支援し、「新しい公共」の拡大と定着を図っていくことを目的としています。

### 株式会社インサイト

障がい者雇用・障がい者福祉（授産）のマーケティング・経営支援、「ソーシャル・ビジネス」の支援・調査・コンサル業を実施。

### 積水ハウス株式会社

大阪市北区に本社を置く、住宅・不動産などの事業を通じ、生活者の暮らしをサポートする住宅メーカー

## 事業の概要

「ミンナDEカオウヤ」プロジェクトは、東日本大震災で被災した障がい者を支援することを目的とした活動です。被災地の障がい者福祉施設の授産品が被災により販売できなくなり、障がい者の生活の糧がなくなっているため、大阪にて授産品の販売店「ミンナDEカオウヤ」を出店し、学生を中心としたボランティアスタッフで授産品を販売し、支援を行いました。

また、販売のために、被災地の状況確認、授産品などの商品流通等の新たな仕事を生みだし、この仕事を被災地の障がい者福祉施設等に発注することで、さらに障がい者支援へとつなげることができました。ボランティアスタッフは、被災地に入ったボランティアの方々や、被災地の現状を伝える講習会等を受講し、状況を理解し意義に賛同した方々で構成されています。





## 協働のパートナーとの出会い

☆(株)インサイトから!

(株)インサイトが、東日本大震災の被災地支援を模索する中で、障がい者を中心とした被災者のニーズと大阪市民ボランティアによる支援をつなげる活動に着眼し、具体化するために、(特活)み・らいず、積水ハウス(株)、大阪市民局へ協働を呼びかけました。

## プロセス

|                            |   |                |
|----------------------------|---|----------------|
| ① 事業内容の協議・調整               |  ◎事業の目的や内容を明確にして共有し、効果的な取組みになるよう話し合いました。                                     | <b>P</b>       |
| ② 講演会・討論会の開催               | ◎現地の様子やキーマンを、(特活)み・らいずが所属する「つなプロ」(被災者とNPOをつないで支える合同プロジェクト)から収集し、現地の情報を伝える講演会等を開催しました。   | <b>D</b>       |
| ③ 授産品販売会の開催<br>(ミンナDEカオウヤ) |  ◎積水ハウス(株)の提供する場所にて、講演会等へ参加した学生を中心に、被災地に対して何かを支援したい人が集まり、店舗のスタッフとなって取り組みました。 |                |
| ④ 被災地へ大阪からの応援の声を届ける        | ◎ミンナDEカオウヤのスタッフで、カオウヤ通信や手紙を、被災地からの元気発信を応援しようとして関西で始まった「元気だ状」プロジェクトと連携して、現地の福祉施設に届けました。  | <b>C<br/>A</b> |
| ⑤ 事業のノウハウをデータ化して共有         | ◎(株)インサイトの調査・コンサルティングノウハウを活用し、市民巻き込み型の障がい者支援のモデルケースとしてノウハウをデータ化して、成果を関係者全体で共有しました。  |                |

※役割分担：☆協働のパートナー ★大阪市 ◎両者

 は、協働のポイントです。

## 協働で実施する理由!

(特活)み・らいずは、大阪府内で障がい者支援を行っており、障がい者の事情に詳しく、また、被災地で支援活動を行っており、現地の事情・ニーズを把握しています。(株)インサイト、積水ハウス(株)は、事業企画力や企業を巻き込むコーディネート力といった強みを持っています。大阪市民局は、公的な信用を活かした広報活動等を行うことができます。

それぞれの強みを活かし、ニーズ把握から支援までひとつながりで実施する事が可能になります。

## ここがよかった! ~実践者の声~

☆【積水ハウス(株)】大災害発生時、支援の手が行き届きにくい障がい者の方々への支援のあり方について、協議体メンバーや多くの参画者と、それぞれの強みを生かした連携により、具体的な支援活動を実施できました。万一の大災害発生を見据えた「顔が見えるネットワーク」づくりに参画できました。

☆【(株)インサイト】連携先の役割・ノウハウや資源を活用して支援の内容、支援の輪がかなり広がりました(役割・ノウハウや資源の例 現地の情報収集:み・らいず、場所の提供・企業ネットワーク:積水ハウス、幅広い方々への告知:市民局)

☆【(特活)み・らいず】被災者のニーズは多岐に渡っており、一法人での支援では到底支えることが出来ません。今回の取り組みで、それぞれ専門性を持った団体がネットワークを構築すること、また、行政・企業・NPOが協働することでより幅広いニーズに対応できる支援を展開していけるのではないかと感じました。